

塚本裕四郎氏を悼む

弔 辞

塚本裕四郎氏は長らく海上保安庁水路部において航海天文学、編曆天文学研究に従事され、私達は氏の主宰された編曆事業から多くの便宜を得てきました。その上昭和 27 年から 12 年もの長い間、評議員として本会の発展のために尽力されました。

このたび突然御逝去の報に接して誠に痛恨の思いに堪えません。

ここに本会を代表して謹んで哀悼の意を表します。

昭和 40 年 12 月 27 日

社団法人日本天文学会理事長
廣瀬 秀雄



故塚本裕四郎君の思い出

鏑 木 政 岐*

前海上保安庁水路部長塚本裕四郎君は、旧臘急病にて玉川病院に入院加療中のところ、約 1 週間後の昭和 40 年 12 月 20 日午後 9 時 50 分肺気腫のため急逝された。誠に痛惜の念に堪えない。私をはじめ塚本君を相知ったのは、大正 12 年 4 月東京大学理学部天文学科に入学したときで、当時私たちのクラスは秋山薫君、小野有一君、故秋吉利雄君、故窪川一雄君、故浜田恒一君を加えて総勢 7 人であった。大学 3 年間はおたがいに机を並べてよく勉強し、またときどきクラス会を開いて交友を暖めるなどして楽しい学生生活を送り、特に卒業前には一同にて湯河原・伊豆山への旅行をともにして別れを惜んだものである。

塚本君は、中学時代に 1 カ年間病気のため休学されたそうであるが、私たちには普通の健康体であるように思われた。昼休みの時間、私たちがスポーツを楽しんでいるとき仲間入りされなかったが、ときおり会合して学生らしい議論をしているときには、明快な意見を述べられ、知性的でしっかりした信念の持主であることがうかがわれた。彼は、また音楽を愛好し、フルート吹奏にかけては素人ばなれの名手であったが、晩年には健康上のためかあまり手にされなかったということである。

大学卒業の 2 週間ほど前のことと思うが、故平山信先

生に頼まれて、塚本君のところへ東京天文台に就職の意向があるかどうかを確かめに行ったことがあった。しかしどんな理由であったか忘れたが、天文台を志望されず、大正 15 年 4 月から 1 カ年間東京大学大学院に入学されて研究生活を送り、翌昭和 2 年 4 月当時の海軍水路部に就職された。

大正 15 年から約 10 年間私は三鷹天文台に勤務していたので、塚本君に会う機会は少なかったが、昭和 10 年 4 月麻布天文学教室に転勤して以来、ときどき彼の来訪をうけ、伊豆白浜で観測を続けている眼高差 (dip of horizon) の観測状況などのことについて話を聞かせて頂いた。海面に接する大気中でおこる光の異常屈折は航海天文学における最も重要な研究問題の一つであって、このために毎朝太陽が地平線上に姿をあらわす写真を撮り続けたようである。塚本君の話によれば、太陽が地平線から姿をあらわす写真はいくらか扁平な楕円の形をするとは限らず、そのときどきによって複雑な形を呈しているということであった。この観測は年月をかけて続けられたので、この仕事をまとめられたならば、後世に残す不朽の業績となったことと信じて疑わない。しかし公務多忙のためになし遂げられなかったことを残念に思う。また、戦時中塚本君は簡易天体観測による軌跡航法を考え出されて実施に移された。この航法は今日でも近海漁業に従事する漁船が採用しているそうである。このよう

* 東大名誉教授。

な業績が認められていくたびか海軍大臣賞を受けられたと聞いている。

昭和34年に塚本君は水路部長に就任され、昭和38年6月末定年退職された。この間水路部長として立派にその職責を果たされたことはもちろんであるが、このほか国際天文連合の暦部の委員として世界天文学の発展に貢献され、また掩蔽観測研究会の有力なメンバーとして測地学の発展にも貢献された。ここで、最も残念に思うのは、昭和35年8月9日に長男隆君を信州戸隠山で不慮

の事故によって亡くされたことである。隆君は東大理学部数学科を卒業後直ちに同大学院修士コースに進まれ、当時数学コースの修士2年に在学中であって、数学科の教官や同僚からその将来を囑目されていた秀才であった。この隆君の死によって受けた塚本君の精神的ショックは非常に大きく、これが塚本君の健康を害し、彼の死を早めた原因でないかとさえ考えられるのである。塚本君の死に直面し、私ども級友としては心淋しく感ずる。心から塚本君の霊よ安かれと祈る。

塚本裕四郎氏略歴

- 明治34年5月17日 福岡県福岡市上名島町に塚本兎三郎氏(弁護士・炭鉱経営)の4男として誕生
- 大正15年3月31日 東京帝国大学理学部天文学科卒業
- 昭和2年3月31日 同上大学院終了
- 4月26日 海軍水路部編暦課嘱託
- 12月27日 海軍技師に任ぜられる
- 14年3月23日 勲六等瑞宝章を授けられる
- 15年4月16日 暦推算法の改良に関する考案により海軍大臣より表彰
- 4月29日 勲五等瑞宝章および一時賜金を授けられる
- 18年11月10日 水路部第2部第4課長に補せられる
- 19年1月31日 学術研究会議第3および第5研究班員を命ぜられる
- 6月29日 航空天測表の考案により海軍大臣より表彰
- 7月14日 学術研究会議天文学研究連絡委員会委員を命ぜられる
- 20年11月29日 水路部第一部編暦課長に補せられる
- 21年2月1日 水路部第一部長を命ぜられる
- 23年5月1日 海上保安庁水路局編暦課長を命ぜられる
- 26年6月1日 運輸省永年勤続者として表彰される
- 7月20日 水圧式測深機研究の功績により運輸大臣より表彰
- 30年2月22日 日本学術会議地球物理学研究連絡委員会委員となる
- 31年11月1日 学術奨励審議会専門委員になる
- 32年6月1日 星食予報器の改良により運輸大臣より表彰
- 34年4月1日 水路部長になる
- 5月29日 原子力委員会専門委員になる
- 34年6月1日 日本学術会議海洋学研究連絡委員会委員になる
- 8月1日 測地審議会委員になる
- 35年10月1日 日本学術会議海洋学特別委員会委員になる
- 12月1日 日本学術会議太平洋学術研究連絡委員会委員になる
- 36年6月30日 宇宙開発審議会専門委員になる
- 38年7月3日 定年退職
- 40年12月20日 従三位勲三等に叙し旭日中授章を授けられる。
- 同日 21時15分 肺性心のため東京都世田谷区の日産厚生会玉川病院で逝去

塚本裕四郎氏論文目録

- 昭和14年7月, 水路要報第18年7号, 天体と陸標との夾角による陸標距離決定法○昭和14年10月, 水路要報第18年10号, 山頂仰角法について○昭和15年1月, 水路要報第19年1号, 天測計算の簡易化についての一考察○昭和15年2月, 水路要報第19年2号, 推定位置用天測計算表の一私案○昭和15年2月, 水路部報告 第9巻, 異星等高度経度法および表(北緯 $0^{\circ} \sim 20^{\circ}$) 英文 ○昭和15年7月, 水路要報第19年7号, 仮定位置天測表の吟味および私案○昭和15年9月, 水路要報第19年9号, 山頂仰角法の一般化とこれに適する図表○昭和16年, 水路要報第20年増刊号, 艦船位置測定法の基礎論, ○昭和16年, 水路要報第20年増刊号, 目標間の夾角の測定による位置の決定法○昭和16年10月, 水路部, 海上屈折現象ノ解釈付視達距離改正表○昭和17年11月, 水路部報告 第10巻, 異星等高度経度法および表(南緯 $0^{\circ} \sim 20^{\circ}$) ○昭和17年12月, 水路部, 視達距離改正表(第2次案) ○昭和18年, 水路要報第22年増刊号, 夾角天測法 ○昭和19年1月, 水路要報第23年1号, 天測法略説○昭和24年8月, 水路要報13号, 夾角法について○昭和24年9月, 日本航海学会誌 第1号 夾角法について○昭和25年3月, 日本航海学会誌 第2号, 海上における光の屈折現象○昭和25年4月, 水路要報 17号, 天文航法の説明並びに計算の統一について○昭和25年6月, 水路要報18号, 夏季神子元島付近における眼高差調査について○昭和26年6月, 日本航海学会誌 第3号, 水圧による深さと波の測定法(鈴木裕一と共著) ○昭和26年8月, 水路要報 25号, 水路部の思い出○昭和26年9月, 日本航海学会誌 第4・5号合併号, 船のローリングと波の同時自記法○昭和26年10月, 水路要報 26号, 水圧による水深と波高の測定法○昭和29年4月, 日本航海学会誌 第10号, 第5海洋丸漂流物の鑑定○昭和29年4月, 水路要報 41号, 第5海洋丸漂流物の鑑定○昭和29年4月, 水路要報 41号, 昭和29年北極方位角表○昭和29年6月, 水路要報42号, 聴音による底質の判定について○昭和31年11月, 日本航海学会誌 第15号, 海底が泥の場合の水深について○昭和32年3月, 水路要報 52号, 日食観測の目的および計画の概要(ベトナム) ○昭和32年6月, 日本航海学会誌 第16号, 高度方位暦について○昭和32年12月, 日本航海学会誌 第17号, 海図の水深について○昭和36年2月, 日本航海学会誌 第24号, 本邦近海の磁針偏差について(歌代慎吉と共著) ○昭和38年6月, 日本航海学会誌 第29号, 正しい海図(港泊図)のあり方(川上喜代四と共著)